

## JSL 高校生の授業理解を助ける補助教材開発の試み

坂井香澄（筑波大学大学院生）

### 1. 目的

神戸（2006）は、JSL 生徒が「高校で生きぬく力」は「学力」であると指摘する。本実践は、A 高校に在籍する日本語を第二言語として学び、支援を必要としている生徒（以下 JSL 生徒）の授業理解を助ける教材を開発し、生徒の「高校で生きぬく力」を育む一助となることを目的とする。

### 2. 対象

A 高校に在籍する JSL 生徒 2 名が使用する教材を筑波大学の学部生 12 名が作成した。作成は授業の一環として行われた。対象となった JSL 生徒 2 名は共に、中学 2 年生の時に来日し、以降は日本の公立学校に通学している。生徒の母語はタガログ語だが、母国での学習言語は英語であった。中学生の時には体系的な日本語の指導を受ける機会に恵まれず、ほとんど何もわからないままクラスの授業に参加していたという。高校入学後は日本語の取り出し指導や放課後の支援を受け、現在の日本語能力は初級後半から中級前半レベルである。生徒へのインタビューから、日本語能力の向上とともに少しずつ日本語で行われる授業が理解できるようになってはいるが、未だにわからない部分も多く、特に漢字が難しいと感じていることが明らかになっている。

### 3. 実践内容

教材作成にあたりニーズ調査として、大学生 12 名と指導教員が A 高校を訪問し、JSL 生徒 2 名、日本語支援担当教員やクラス担任、教科担当教員らと面談を行った。JSL 生徒本人の希望と A 高校教員との協議の結果、教材開発初年度である今年度の科目は「世界史」となった。JSL 生徒への聞き取りから、①わからない語彙を調べるだけで疲れてしまい内容を理解することができていないこと、②学校の授業をわかるようになりたいので復習教材よりも予習教材が欲しいと考えていることが明らかになった。こうしたニーズを満たすため 2 種類の教材を作成した（表 1）。教材は高校の授業進度に合わせて作成し、Word ファイルで共有した。

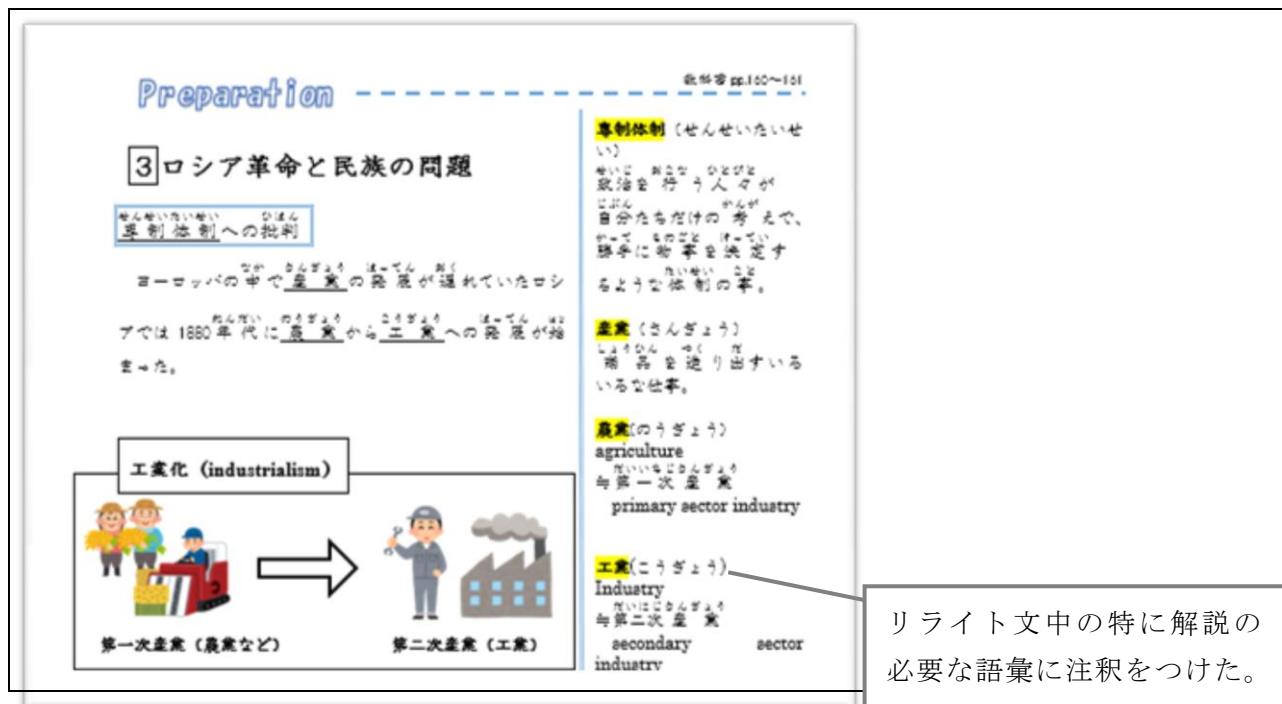
【表 1 平成 29 年度作成教材】

教材種類	教科書本文検索用テキスト（教材①）	内容理解のためのリライト教材（教材②）
作成目的	生徒が簡単に無料オンライン学習支援ツール（チュウ太の Web 辞書 <sup>1)</sup> ）で語彙検索ができるよう作成。	生徒が教科書本文の内容をより少ない負担で理解できるよう作成。
内容	教科書本文の Word ファイル。コピーアンドペーストで語彙検索ができる。	教科書本文を生徒が理解できる範囲の語彙を用いリライトした解説文と語彙解説。
使用ツール	1. 日本語読解学習支援システム「リーディング チュウ太」 <sup>2)</sup> 2. jReadability「日本語文章難易度判別システム」 <sup>3)</sup>	

ニーズ①のために教材①、ニーズ②のために教材②を作成した。2 種の教材により生徒の漢字意味調べの負担を最小限にし、予習段階で内容理解に力を注げるように工夫した。リライト文の

難易度判定、解説をする語彙選出には表1のツールを用いた。図1に作成教材の一部を掲載する。

【図1 作成教材の例】



#### 4. 結果・考察

今年度は教科書 24 ページ分の教材作成を行った。教材作成中は JSL 生徒からフィードバックを得て、それを次の作成に活かした。生徒からは「授業内容がわかるようになって嬉しい」「テストの点が上がった」「ことばを調べる時間が少なくなって、内容を理解するために時間を使えるようになった」という肯定的な評価が得られた。さらに大学生が教材作成をすることに対し「自分たちを気にかけてくれる人がこんなにいることがありがたい」と述べ、今回の実践は生徒の授業理解促進だけでなく、自己効力感の向上、社会とのつながり感をもたせることに貢献した。こうしたことは「高校で生きぬく力」としてだけではなく、社会で生きぬく上で必要な力である。本実践は JSL 生徒の学力だけにとどまらない力を育む一助となったと考える。

付記

共同実践者：一二三朋子（筑波大学）・入山美保（筑波大学）

注)

- 1) 日本語読解学習支援システム「チュウ太の Web 辞書」〈<http://chuta.jp/>〉
- 2) 日本語読解学習支援システム「リーディング チュウ太」〈<http://language.tiu.ac.jp/>〉
- 3) jReadability「日本語文章難易度判別システム」〈<https://jreadability.net/ja/>〉

#### 【引用文献】

神戸芳子（2006）「第 2 章 外国人生徒のためのわかる授業 授業の中での居場所づくり」清水睦実・児島明編著『外国人生徒のためのカリキュラム 学校文化の変革の可能性を探る』嵯峨野書院、pp.15-26